

第3次ウッドショックと今後のPWAの活動について

日本国内の建築用材の状況

現在、多方面より情報が出ている通り、日本国内においてこれまで輸入されてきた建築用木材に、これまでにない供給不足と価格高騰が発生しており、いわゆる第3次ウッドショックと呼ばれている。

ウッドショックの原因

この第3次ウッドショックは、下記の要因から発生している。

1.米国の住宅着工の好調

コロナの影響から在宅需要の増加に加え、住宅ローンの低金利から、急激に住宅着工が増加しており、価格が急激に上昇し輸出量が減っている。

2.海上輸送の問題

コロナ禍における、米国の輸入増加と港湾作業能力の低下により、北米にコンテナが滞留しているため、海上輸送運賃が急激に値上がりしている。

3.中国の旺盛な需要

品質に要望が少なく、価格が高い中国にヨーロッパ材・北米材の木材供給が向かっている。

4.カナダの供給力低下

カナダの最大大手の丸太輸出業者が伐採を停止した。

ウッドショックの状況

こうしたことから、これまで輸入されてきた輸入木材の供給量が減少しており、構造材・羽柄材ともに供給がひっ迫している。

PWAの対応

これまでPWAは国産製材を中心として中大規模木造に利用できる部材開発や、これを利用した木造建築の普及を目指した講習会等を行ってきた。

今回のウッドショックを契機に、さらなる国産材の利用の推進をすすめるとともに、現在、入手できる可能性が高い木材をもとにした、各地域における中大規模木造用の構造材仕様書の整備を早急に進める。

なお、現在設計をすすめている物件がある場合の当面の対応策として、建築予定地域のプレカット工場に現状供給できる可能性が高い材料の確認をしたうえで、柱材はなるべくス

ギの製材または同一等級集成材を用いるようにし、梁材についても可能な限りスギ無等級の製材（梁成 240 以下かつ 4m以下）または対称異等級集成材（E65、梁成 450 以下かつ 6 m以下）を用いるようにしたうえで、どうしても曲げヤング係数の高い材料が必要な横架材については樹種指定をせずに対称異等級集成材 E105 以上または LVL110E 以上としておくことを推奨する。これによって代替材へ切り替えの選択肢が広がる。

また、輸入材から国産材へのシフトも始まっているため、国産材の安定供給についても難しい状況になっている。こうしたことから関係団体や関連省庁等へのヒアリングを行い、今後の方針について検討をすすめる。

関連情報

- ・ 林野庁

国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>

- ・ 日本集成材工業協同組合

プレスリリース「構造用集成材の供給見通し等について」（3月29日）

<https://www.syuseizai.com/topics/info/2070>

以上